

申請申込書

地域型住宅グリーン化事業における補助金申請を申込みます。

物件名		申込日	年	月	日
会社名		担当者			

建設地	新潟県				
構造	木造	階数	階	床面積	m ²

活用補助金		○印を記入
長寿命型	活用実績のない施工事業者による補助枠	
	施工事業者に制限を設けない実施枠	
認定低炭素住宅		
性能向上計画認定住宅		
ゼロ・エネルギー住宅	活用実績のない施工事業者による補助枠	
	施工事業者に制限を設けない実施枠	
優良建築物型		

該当する項目に○で囲ってください。		サポートチーム(協議会会員)以外の 依頼先を記入(任意)	
構造計算を協議会サポートチームに依頼	する	しない【	】
構造図の作図を協議会サポートチームに依頼	する	しない【	】
長期優良住宅申請図書の作図をサポートチームに依頼	する	しない【	】
申請業務の代行をサポートチームに依頼	する	しない【	】
その他の要望事項(各種制度のサポートなど)	する	しない【	】

自主チェックリスト提出予定日	年	月	日
契約予定日	年	月	日
交付申請予定月 ※契約後2週間以内に事務局へご提出ください。	年	月	A or B コース
着工予定日	年	月	日
竣工予定日	年	月	日
実績報告予定月 ※完了検査2週間以内に事務局へご提出ください。	年	月	A or B コース

- ※太枠はもれなく記入してください。
- ※お客様と合意した時点で申込可能です。
- ※ご契約前でも确实物件であれば申込を受け付けます。
- ※交付申請・実績報告のコース選択は、価格表をご確認の上ご記入ください。

ネイティブハウス共通ルール 自主チェックリスト

チェックリストを記入後、着工日までに事務局へチェックリストを提出してください。

会社名		担当者	
物件名			

長寿命型

チェック項目	備考	チェック
耐震等級(倒壊・損傷防止)を 2以上 としている。		
柱・梁・基礎は 許容応力度計算 を行っている。	スパン表を用いていない。	
M12アンカーボルトの埋め込み長さは 250mm以上 としている。		
M16アンカーボルトの埋め込み長さは柱脚の短期許容耐力25KN以下で 360mm以上 、33.5KN以下で 510mm以上 としている。		
アンカーボルトは、 継手、仕口、耐力壁端部 に配置している。		
アンカーボルトは @2700以内 に配置されている。		
アンカーボルトの設置には 治具 を用いている。		
SWS試験 による地盤調査を実施し、建物の四隅と中心付近を調査している。		
断熱性能等級を 4以上 としている。	旧基準の仕様規定以上の厚さとしている。	
台所 に熱感知式の火災警報器を設置している。		
住宅金融支援機構が発行する木造住宅工事仕様書に準じている。		
第三者による住宅履歴管理のサービスに登録している。	いずれかを選択	登録機関名:
当協議会の住宅履歴管理のサービスに登録する。		目視録
※ 平面計画において斜めプラン、中庭プラン、スキップフロアープランを含む。	「有」の場合は後日、資料の提出を求められます。	有・無

※追加提出頂いた書類の検討結果により構造計画上問題があると判断した場合は申請申込みをお断りする場合があります。

認定低炭素住宅

チェック項目	備考	チェック
一次エネルギー消費量は認定低炭素住宅認定基準値に準ずる性能とする。	⇒平成28年度省エネルギー基準よりも約10%上回る性能	

性能向上計画認定住宅

チェック項目	備考	チェック
一次エネルギー消費量は認定基準の水準に準ずる性能とする。	⇒平成28年度省エネルギー基準よりも約10%上回る性能	

ゼロ・エネルギー住宅

チェック項目	備考	チェック
H28年度省エネ基準を用いた評価としている。	H25年度省エネ基準は不可	
基準UA値、R0値を20%以上、R値を100%以上の性能としている。	ゼロ・エネ交付申請必達値	

※実績報告時に必達値をきることがないように、グループ目標値を目指してください。

優良建築物型

チェック項目	備考	チェック
認定低炭素建築物を取得する場合は、省エネルギー基準の-15%以上としている。	いずれかを選択	
BELSを取得する場合は水準を★★★以上とする。		
CASBEEを取得する場合は水準をB+以上とする。		

地域材

チェック項目	備考	チェック
主要構造材(土台、梁、桁、柱)の過半に越後杉を使用している。	いずれかを選択	
主要構造材(土台、梁、桁、柱)の過半に合法木材(国内・国外)を使用している。		
越後杉又は合法木材の流通経路はすべて当協議会の会員を介している。		

グループ内検査(長期優良住宅のみ)

検査内容	検査予定日
配筋検査(コンクリート打設前)	年 月 日
構造検査(金物が確認できる状態、断熱施工前)	年 月 日

補助金申請書

申請書類	申請予定月	書類作成方法
交付申請 ※契約後2週間以内に事務局へご提出ください	月	コース
実績報告 ※完了検査後2週間以内に事務局へご提出ください	月	コース

※着工前(採択日以降の更地の写真)と着工済みの撮影日の判る写真の提出(様式3-3)が必須となりました。

事務局受付欄

1. 配筋検査	
工事名:	様邸新築工事

基礎名称	スラブ名称

検査日	検査員	(社名)
施工会社		(担当者)

※記入は○×をお願いします

検査項目	No.	チェック項目	仕様	写真	チェック
【立上り】 配筋間隔	1	各通りの主筋本数は、設計図通りか	上()-D()下()-D()		
	2	鉄筋のあき間隔は確保されているか	32mm以上		
	3	縦筋の断面及び本数、間隔は設計図通りか	立上り幅150mmの場合、D10@200以内 D()@()		
	4	縦筋のフック有り無しは適切か(フックなしの場合は構造計算が必要、ユニット鉄筋の場合は認定品であること)	<input type="checkbox"/> フックあり <input type="checkbox"/> フックなし <input type="checkbox"/> 認定品		
	5	かぶり厚さは設計図通りか	外側60mm、内側40mm		
	6	結束線は型枠の内側に向いているか			
	7	(べた基礎の場合)根入れ深さは適切か(120mm以上)	()mm		
配筋間隔	8	各通りのフーチングの幅は設計図通りか	()mm		
	9	ベース筋の断面、間隔は設計図通りか	D()@()mm		
	10	かぶり厚は設計図通りか(60mm以上)	()mm		
	11	根入れ深さは適切か(240mm以上、設計値以下)	()mm		
	12	型枠内にごみは落ちていないか			
【スラブ】 配筋間隔	13	主筋、配力筋の断面、間隔は設計図通りか	主筋D()@() 配力筋D()@()		
	14	鉄筋のかぶり厚さは設計図通りか(60mm以上)	()mm		
継手	15	鉄筋の継手の定着長さは確保しているか	40×D10=400mm 40×D13=520mm		
隅角部 (端部・コーナー)	16	補強筋は所定の位置にあるか			
	17	3本以上重なる補強金は斜めに配筋されているか			
人通口 開口部 貫通部	18	配置、寸法は設計図通りか			
	19	補強筋は開口から100mm以内の位置にあるか			
	20	スリーブ(100φ以上)の補強は所定の位置にあるか	折り曲げ筋D10		
コンクリート (ヒアリング)	21	設計基準強度	()N/mm ²		
	22	呼び強度(設計基準強度+(3~6N/mm ²)+温度補正)	()N/mm ²		
	23	スランプ	()cm		

No.	指摘事項
指摘内容	

運行ルート:検査員→事務局→施工店

事務局	検査員	合・不
//	//	

2. 構造検査		階層
工事名:	様邸新築工事	1F

検査日		検査員	(社名)
施工会社			(担当者)

※記入は○×でお願いします

検査項目	No.	チェック項目	仕様	写真	チェック
部材	1	柱の樹種、サイズ、配置は設計通りか			
	2	梁の樹種、サイズ、配置は設計通りか			
	3	耐力壁の配置は設計通りか			
垂木	4				
	5	ひねり金物は取り付けられているか			
屋根下地合板	6	N50 @150以下			
小屋筋かい	7	小屋筋かいの配置と固定(N50-2本打)			
床水平構面 根太仕様	8	根太 N75 2本斜め打ち			
	9	構造用合板 N50 @150以下	厚さ()mm		
	10	釘の打ち込み状況は良いか(めり込み等)			
床水平構面 根太レス仕様	11	構造用合板 N75@150以下	厚さ()mm		
	12	釘の打ち込み状況は良いか(めり込み等)			
筋かい 耐力壁	13	筋かいプレートの取り付けは適切か			
	14	筋かいに欠込みがないか			
面材耐力壁	15	構造用合板等の留め付けは設計通りか	N()@()以下		
	16	釘の打ち込み状況は良いか(めり込み等)			
	17	受材の留付け N75 @300以下(真壁の場合)			
金物類	18				
	19	火打ちの配置・取付状態は良いか	隅角部より750mm程度、M12ボルト1本		
	20	柱引き抜き金物の仕様、配置は設計通りか			
	21	ドリフトピンは全数入っているか(接合金物工法の場合)			
	22				

	No.	指摘事項
指摘内容		

運行ルート:検査員→事務局→施工店

事務局	検査員	合・不
//	//	